

田植えが終わりました！



ご挨拶が後回しになってしまいました。新緑の美しい季節。皆さま、連休はいかがが過ごされましたでしょうか。今年の連休は、毎年恒例の「田んバ」(田んぼバレー)を開催、大いに賑わいました。こちらの報告はまた後ほど。上は田んぼに写る「逆さ阿蘇」です。



田植えが終わった、というのは、「本番のはじまり」を意味します。今から収穫までの間、水の管理と草との戦いが始まるわけですから。一方で「苗半作(なえはんさく)」という言葉が昔からあります。苗をきちんと育てることがそれほど重要だ、という意味なのだそうです。去年はその苗づくりがうまくいかず、農業を始めて以来の大変な苦労を経験。「苗半作」の意味を心から理解しました。「ノーモア2010(あの失敗を繰り返さない)」をモットーに取り組んだ今年の苗づくり。結果は...!?

ほら、ご覧の通り、とても立派な苗ができました！！種の蒔き方や、水のかけ方によっても、苗の出来具合が変わりますが、何といても最大の要因は温度。育苗ハウスを自ら建設したのに加え、今年の4月下旬から5月上旬は冷え込みが厳しくなかったのも、すくすくと育ってくれました。おじからも「今年の苗は良くできている」と珍しくお褒めの言葉。でも、繰り返しになりますが、ここからが本番です。「苗は良かったのに」と言われたいよう、しっかりとイネの生長を支えていきます。



さて相変わらず田んぼが好きな子供たち。ようやく保育園に行き始めたと思ったら、ある日次男が陳情に来ました。「ねえお母さん。夕方まで保育園に行っていると、農作業ができないよ」と。これには参りました。こちらとしては、農作業をしたいからこそ登園してほしいのですが…。協議の結果、稲刈りまでの間は、お昼寝の前に迎えに行くことに。トホホ。それでも、彼らなりに米づくりを使命と思っていることを嬉しく感じています。以下左から、水遊びではなく水遣りの補助、泥遊びではなく畦塗り、なんだそうです。一番右は田植え中。



そして、田んぼ大会。今年は、開催するかどうかの議論からスタート。この時期のO2ファームは田んぼの準備に苗の準備に大忙し、本来なら休んでる暇はありません。寝る時間を削って夫婦で話し合った結果、「やっぱりやろう！」と。震災以来、大人たちが地震や原発事故のニュースを見て不安そうにしているのを、子供たちは知っています。だからこそ、大人たちが本気で遊び、お腹から笑い転げる姿を見せてあげよう。人が健康的に活動できる素晴らしい田園空間を未来に残していこう。ということで、大人がこどもに戻る日、を意味する(！？)「こどもの日」に開催を決定。直前の通知にも関わらず、天草や大分からも仲間たちが駆けつけてくれました。参加人数は過去最高の大人20人、子供15人。泥んこになってはしゃぐ大人たちを子供たちが半ば呆れ顔で見る、といういつものパターンで、強風も伴い珍プレーも続出。死闘の末「田んぼ2011」を制したのは...私エリ！決勝戦では耕太チームと当たり、主催者2人が優勝・準優勝という、大人気ない、でもみんな本気だからどうしようもない結果となりました。大会よりも長い交流会にもほとんどが参加。大人も子供も大いに笑い、食べました。ちなみに飛び込み注の写真は私です。といっても、泥水で顔なんて見えませんが。



被災地のことを思うと胸が苦しく、こんな状況になってもまだ脱原発に踏み切れないこの国の体勢が悲しくもなり…。でも田植えの真最中に、東の空に大きな虹を発見！東の状況も好転するかも。そんな気持ちになりました。皆さまどうぞお体に気をつけて入梅前の爽やかな季節をお楽しみ下さい。

